

街並み調和とサステナブルを具現化した JR東日本グループ初の木造商業施設

nonowa 国立 SOUTH



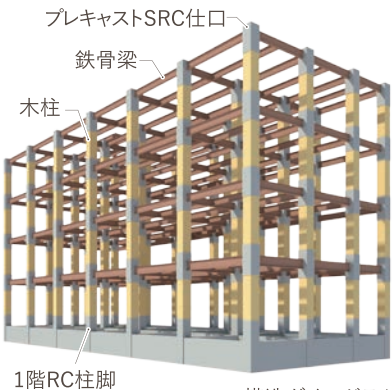
黒いサッシのガラス越しに木の架構がよく見える外観デザイン



大学通りからの駅前の夜景



DBで参加した大林組の開発によるプレキャストSRC仕口。大部分を工場で木柱とあらかじめ一体化することにより精度確保・環境負荷低減を図った。



構造ダイアグラム
資料提供：大林組



内部は再生繊維素材のバナーサインやリサイクル原料を活用したタイルを床に使用するなど、環境に配慮した素材を多用

旧国立駅舎※との調和を高める木造建設

JR中央線国立駅前のランドマークは、大正時代の建築当時と同じ姿で再建された旧国立駅舎。よって、南口にビルを建設する本プロジェクトでもっとも重要な課題は、国立市民が愛する旧国立駅舎および駅前の景観に調和し、駅前空間の魅力をさらに向上させることだった。

そこで、旧国立駅舎のイメージを踏まえて、木造での建設を計画。構造体や仕上げに木材を積極的に使用することで、CO₂固定化や、多摩産材をはじめとする地域の木材の活用など、脱炭素社会の実現にも資する、文教都市国立の玄関口にふさわしい施設の実現を目指した。

※国立市の正式名称

DB方式で技術とコストダウンを追求

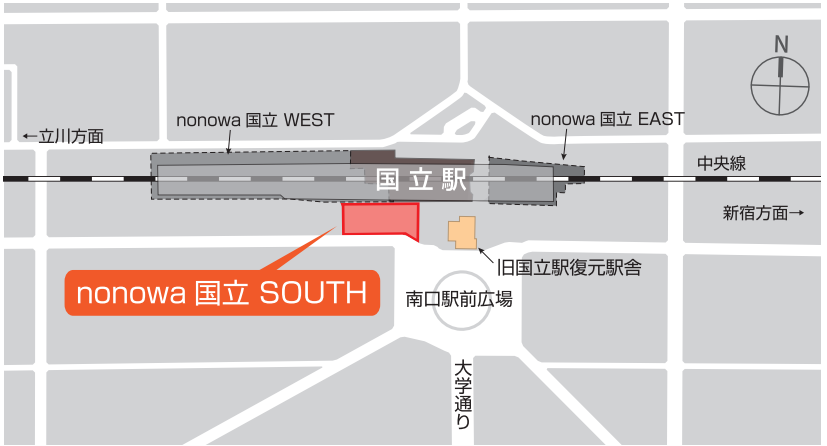
基本設計を進める際、施主からの「4つのフロアのどこに重荷重の厨房を持つ飲食店が入居しても対応できる施設」という難易度の高い要望を木造でかなえるにあたり、より良いアイデアと技術を検討するため、DB（デザインビルド）方式を採用した。

多数の応募から厳正なる審査を経て選出されたのは大林組。独自の木造・木質技術駆使した木造と鉄骨造のハイブリッド構造による、CO₂固定量150tを確保する木材使用量とコストバランスを両立する提案が評価のポイントだった。そこからは、大林組への発注支援業務も当社が担当する形でプロジェクトを遂行した。

グッドデザイン賞などを受賞

前述したように、ポイントは旧国立駅舎との調和である。そこで法令上で許可されている建物高さの半分以下の23m（塔屋部分）にボリュームを抑え、ガラス越しに木の架構を積極的に見せる外観により駅前の景観に豊かさを加えた。木造ハイブリッド構造にしたことで、外周部にブレースのない、すっきりしたデザインを実現できた。

こうして、地域の方々に賛同いただける商業施設が完成。デザインと環境配慮の両立が評価され、グッドデザイン賞をはじめ、多数の賞を受賞するなど、対外的にも高い評価を得ることができた。何より景観と利便性を高めることで、駅前の魅力向上に貢献できた。



PROJECTS nonowa 国立 SOUTH

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。



nonowa 国立 SOUTH	
所在地	東京都国立市
用途	商業施設
建築主	JR中央線コミュニティデザイン
実施設計・施工	大林組
敷地面積	約840㎡（増築部分）
建築面積	約627㎡（増築部分）
延べ面積	約2,420㎡（増築部分）
階数	地上4階
構造	木造（一部S造）
開業	2024年3月
〈担当〉	
統括	林田哲
建築担当	島田かおり、川崎容楊
構造	倉光正人、山口麻佑
設備	武藤直樹
電気	秋元真喜
発注支援	高橋伸行、門川弦太